

産業建設委員会記録

令和6年4月11日(金)
9時58分～11時36分
第3委員会室

【委員】川上委員長、田畑副委員長
村木委員、大谷委員、小川委員、佐々木委員、牛尾委員
【議長・委員外議員】
【執行部】
(金城支所)市原金城支所長、河内産業建設課長
【事務局】大下書記

【議題】

- 1 所管事務調査
 - (1) 浜田市美又温泉国民保養センター再整備基本構想・基本計画について
【金城支所産業建設課】
 - (2) その他
- 2 地域井戸端会での産業建設委員会としての現在の取組状況について
- 3 行政視察について
- 4 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[09 時 58 分 開議]

○川上委員長

現在出席委員は7名で定足数に達しているので、ただちに産業建設委員会を開会する。早速議題に入る。

1 所管事務調査

(1) 浜田市美又温泉国民保養センター再整備基本構想・基本計画について

○川上委員長

執行部から説明をお願いします。

○金城支所産業建設課長

前は概要版を配ったが、このたび完成したため皆のタブレットに配信した。厚い資料なので、要所だけ補足説明したい。

(以下、資料を基に説明)

○川上委員長

委員から質疑はないか。

○牛尾委員

女性用サウナがないのが気になった。これだけお金を引っ張ってきて設備投資しなければならぬのは、最後のチャンスのようなものだと思う。女性を大事にするコンセプトでないと難しい。男性用サウナはあって女性用がないといった施設では、入り口から駄目なのではと思う。

10年前くらいの一般質問で、あそこの再生計画は全て女性対象にしたらどうかと言ったら何を考えているのかとクレームがあった。しかし10年経過して思うのは、あながち間違いではないと。女性に手厚い施設を。美肌というとやはり女性中心の施設で、女性用のものがないのはおかしいのではないかと、スタート前から一定の制約があるような施設は駄目だと単純に思う。体験やリピートなどは随分前から当たり前のことなのだから、それをコンサルが言ったからといって感心しているようでは困る。いろいろある中でどうやって差別化してここへ来てもらうかとなると、やはり女性に優しい、温泉効果も出ているのだから、それを一体的にパッケージで売り出すなら徹底して、例えばトータルで美肌関連でいくような本格的なサウナが良いとうわさになるような、そのようにもう少し仕掛けが要るのではないか。言葉で言っても仕方ないので、あそこの施設が良いとうわさになるような、特に女性をネットワークのターゲットにしたようなものにしないと、今の時代は無理ではないかと思う。

資料を読んだが、自然エネルギーも良いが自然環境がおかしい中でどうしても、例えば天然ガスは浜田もあるし、電気だけに絞るのはいかにも参入できる企業が少ない感じもする。もう少し間口を広げるべきではないかと感じた。

○金城支所産業建設課長

女性を中心とした施設というのを文章で書き切るのは難しい面もあるのだが、おっしゃるように女性を中心に誘客を図っていききたいというのは、行政も地元旅館組合も地域も同じ考えである。その一例として、女性の脱衣室にはパウダールームを設け、照明、ドライヤー、インテリアまでこだわろうと思っている。もし男女で来られて、女性用はこうだったと話したら男性側が驚くような、そういう差が付く施設になろうかと思っている。

それからサウナについては、内部または業者にも頼み、先進地事例調査もさせていただき、男女ともサウナ、男女とも炭酸風呂、両方付けるなど色々なパターンをシミュレーションと検討をした。行政だけでは視点が狭いかもしいたため、有名な美容研究家に美又に来てもらってアドバイスいただいたり、ターゲット層に近い広島女性のヒアリングを重ねたりしながら、女性風呂には美肌効果がより実感できる炭酸風呂を選ばせてもらった。詳細設計については再度、今の利用者もおられるし最後のチャンスだと思うので、選定に当たっては再度検討を重ねたい。

エネルギーについては、平米数一定以上の公共施設は省エネルギーを検討する方針があるので、詳細設計の中で改めて検討することになっている。ソーラー、ボイラーの仕組みなど、改めて設計しようと考えている。

○牛尾委員

30年くらい前、今は倒産したが鳥羽に女性を中心とした1泊4万円くらいの施設があった。炭酸風呂は当たり前で、90%が女性客だった。やはり何か所か自分で行って体験して、課長なり支所長なり会長なりが、コンサルの言うことばかりではなく、行って自分の金を払って使ってみて、こういうのが良いという経験をいくつか積まないといけないと思う。それが一番ではないか。現場を見る。一番良い所と一番悪い所へ行けば済むが、一番悪い所は行かなくても今あるのがそういう所だから。せめて3本の指か5本の指に入る所へ行って自分で体験してほしい。その上でこの資料を読んで、疑問を持つことが必要なのではないか。

○川上委員長

これは委員からの意見である。その他質疑はないか。

○大谷委員

源泉かけ流しの想定はあるかないか。

○金城支所産業建設課長

現在の構想、基本計画については循環ろ過になっているが、今度のプロポーザルでは改めてそこも踏まえて提案いただく。前回指摘をいただいたオゾン殺菌も循環ろ過のあり方も含めて、かけ流しが可能かどうか再度、医療のこともあるので、調べて詳細設計に反映する。

○大谷委員

確かにかけ流しの場合には、足した湯で何分かくらいで全体の湯が交換できるという想定が必要である。そのためには湯量がないと無理である。しかし浴槽の容積を二つに割って、一つは源泉かけ流し、もう一つは循環式というようにすればそれは可

能かと思う。一つでもあれば看板に書けるので、浴槽を分けて対応するのは一つの手だと思う。

全部がかけ流しというわけにはなかなかいかないと想定できるが、循環にしたときのオゾン殺菌なども想定してみるとの話だった。その際は機械室をガラス張りにして中が見えるようにしておく方が良いのではと思う。お菓子の製造工場なども、作る過程を見せると結構楽しめる。今回そこそこのお金を取るので、そのためには、循環ろ過はこのように丁寧にやっているのを見せることで、信頼度を高めてもらう。すると、これだけお金を出したとしても、これだけのことをしてもらっているならありだと納得感を得てもらうこともあると思う。また、最近は工場見学が観光になっているところもある。温泉を維持するためにはこのような機械設備が要るのだということをPRするという意味で。裏方なので見せたくないという施設も見せて、温泉というのはどういう仕組みになっているか示すのも、一つのPR材料になるのではないかと思う。この点いかがか。

○金城支所産業建設課長

前回、オゾン殺菌や紫外線殺菌など目からうろこのような提案をいただいた。設計会社とは契約が切れて、今度は詳細設計の新たな業者選定になるので、そこで検討させてもらおうと市は考えている。それを仮に採用した場合には一つのアピールポイントになるので、その見せ方、どうやって分かってもらうかも併せて、ガラス張りも方法の一つとして、検討したいと思っている。

○大谷委員

特に外湯だが、浴槽は小さいのをたくさん作ったほうが良いのではないかと思う。近くで言うと、平田のゆらり。桶風呂が三つあるのだが結構人気で、皆が空きを待ちながら入る。一人で湯舟につかると気分が違う。そういったほうが良いと思う。また、さんべ荘もそうだが、あそこは硫黄系などいろいろある。同じ泉質であっても浴槽が違っていると、それに入ってみたい気分になる。順番に入ることでリピート率も高まる気がする。

あと、建設予定地の山側に民家が何件かあるが、あそこからの視線をどう制御するかは考えているか。

○金城支所産業建設課長

まず浴槽を分けたらどうかという提案について。私もこういう担当をしているので色々な温泉地へ行くのだが、確かに檜樽、壺湯、打たせ湯、寝湯、色々な種類がある。そちらについても詳細設計の中で数を区切ってここはかけ流しにするといったことも含めて、全体的な調整をさせてもらいたい。

目線の遮りについては、今回の基本構想の大きなテーマになるので、露天風呂関連については川側に設置するのが基本的な考え方になるかと思っている。今添付している平面図も露天風呂は全て川側に配置して、背中には高屋根など視線を遮る仕組みを考えている。

○川上委員長

大谷委員が今言われたのは、温泉の上に民家が何軒かあるが、それについて検討されているかということだと思う。

○金城支所産業建設課長

民家からの視線を遮るために、入浴が見えてはいけないので、そのことは配慮して建物の構成を考えて、屋根の高さで見えないようにしようとしている。

○大谷委員

浴槽だけでなく、反対側も庭があつてくつろぎエリアになる。その際に上からの目線があると落ち着かないのでは。何か、温泉の雰囲気をも崩さないように目線を遮るような細工が要るのではないか。

○金城支所産業建設課長

実は基本計画の中でも検討はした。遮蔽板を考えたのだが、民家が高すぎて無理だろうと結論を出している。民家から見える可能性があるのは通路だけにしており、樹木で配慮はしつつ、隙間からはどうしても見えてしまうという構成にしている。無料休憩室などは民家から見えない方向に庭を臨むように窓を配置する。通路はどうしても少し見えてしまう。

○大谷委員

少し高めの料金設定で、しかも特別な空間を醸したいのであればそこは配慮しないと落ち着かないと思う。一昨日も行って見たが、やはり何らかの遮蔽をしないと上から見える。あのあたりに大木でもあれば遮ってくれるだろうが、何かかまさないかと。単純に言うと、つまらない。

○牛尾委員

あそこに行けば覗けるというのは、SNSで一気に拡散する。

○金城支所産業建設課長

今回敷地整備をするに当たり、活用できそうな大きな樹木は開発用地に仮置きで退避させており、それをまた戻させていただく際にうまく使いたい。加えて、少しは見えるが視線が気にならない程度に樹木や遮蔽を工夫しないといけないだろうとは考えている。

○大谷委員

その際の木だが、年間通して来てもらうためにも、四季折々の楽しみになる木が欲しい。春は桜だろうが、夏なら例えばエゴノキ、お茶の水にはエゴノキ並木がある。そういう、四季を感じるような花木を設置するのが良い。先々の整備を今からしておいたほうが良いのでは。足立美術館が十数年も世界一の庭だと言われているのは、それだけの人が整備しているからというものもあるが、周辺の山々も利用するなど周囲の環境も活用している。そのように周囲の環境も利用した美又の施設という視点を持ったほうが良いのでは。

○金城支所産業建設課長

樹木については美又地区景観協定において、和の樹木を植えようという指定があるので、エゴノキという提案は参考にさせていただき、四季を感じる配置または選定

を今後の詳細設計でさせていただきたい。

2点目の県道の斜面について。実は国民保養センターをいつかは建て替えるのだろうという思いの中で、県道も斜面ではあり、県の管理地である。随分前から要望活動をしており、今は芝桜を全面に植えるという実験をしてもらっているのだがなかなか成果が上がらない。そろそろ結論を出してもらい、樹木に切り替えるか、そのまま芝桜を全面に植えるかは、県とも相談したい。足立美術館のような景色を検討した上で、樹木などのお願いを県にしていけないといけない。

○大谷委員

その点ではヤマブキやタニウツギはその辺に自生しているので強い。それをそれなりの面積まとめて植えていけば、結構きれいだと思う。金が掛からないように細工すべきだと思う。検討してみしてほしい。

○金城支所産業建設課長

承知した。

○牛尾委員

源泉かけ流しがあるかどうかは選ぶ基準の入り口だと。最低1か所はあると通の人にとって売りになる。温泉にはまっている人のニーズをいくつ備えられるかが、いかにお客を呼べるかの入り口だと思うので、検討するではなく発注に入れ込んでおかないと駄目では。

○金城支所産業建設課長

前回の議論、また今日の意見も承知しており必ず検討することになっているのだが、今プロポーザルで公募しようとしているので、こちらの思いをあまり前面に出すとその提案しか出てこなくなるので、そこは少し自由度を持たせて、業者選定をまずさせていただいてからご相談したい。

今日、目からうろこだったのは、全てをかけ流しにするのではなく一つをどうだろうかということで、湯量の問題も。今、美又温泉の足湯が47度くらいで熱いという苦情がすごくある。このように気になっているところはありながらの検討になるため、確約までは言えないが前向きに検討したい。

○大谷委員

熱いのを我慢して入ることによる医療的な効果もある。草津温泉は熱い湯しか出せないなので、かき回して温度を下げる。しかし熱い中に入ることによって体の再生作用が高まる。熱さで軽い火傷を負い、それを回復しようと体が活性化する作用があるので、それはそれでそう説明しながら活用すれば、役に立つと思う。好みで言うと確かに熱いかもしいないが、熱いのが良いという表示をしながら、それも試してみても言うのもありだと思う。コンセプトとして体験や発見を入れるのであれば、そういう方向性のほうが良いかと思うが、その点はどうか。

○金城支所産業建設課長

美又温泉の供給の仕組みとして、裏山の頂上にあるタンクに一度貯めてから各旅館へ配湯している。硫黄率が上がると源泉からタンクに上げる量が増えて各旅館に同

じ温度で届く。前回少し関連として話したが、温泉使用料を減免したことでかけ流しのほうが得かどうか実験したところ、各温泉宿への供給温度が上がり、お客から苦情が出るので温度を下げてください。これは天然のものなので、下げるなら供給ボリュームを絞るしかない。そのこともあって、1か所だけかけ流しにして全体に温度の影響が出なければ良いが、そこも配慮して検討したい。

○大谷委員

いずれにせよ温泉というのは整備が大変である。その大変さをお客側にも示していかないと理解が得にくいと思う。家庭の設備のように適温が出てくるものではないので、自分にとって良い温度に調整してお楽しみいただくのもありだと思う。その面倒くささも体験として楽しんでもらうことも含めて、来ていただけるコンセプトにされるのが良い。

内湯の浴槽温度も、できれば三つくらいの温度設定があると良い。人によって好みが違うので、対応できるよう分けた温度設定を表示しておく使いやすいと思う。鳥取の温泉には温度計で温度が示してあり、熱いと認知してもらった上で入るような仕組みもある。それも考えたら良いかと思う。

○小川委員

都会にあるなら循環式かかけ流しかの差は、ニーズには大きく関係しないかもしれないが、これだけ温泉がある中で、かけ流しとそうでないものがあるなら、どうしてもそちらが有利になる。新たなコンサルに期待したい。

先ほど言われた民家との関係について。地元の方に言わせると、レジャーエリア部分をなぜあのような狭いところに固めてやらざるを得なかったのかと。面積的には恐らくレジャーエリアのほうが広いのだろうが、源泉の関係や旅館との距離などあったと思う。どういういきさつでこのようなエリア分けになり、今あるものを潰してその横に造る方向に進められたのか。メリットがあつてのことだろうが。

○金城支所産業建設課長

まずかけ流しについては、ずっと担当する中で、ある旅館はかけ流しを標ぼうして誘客を図っているし、それができないので循環式を採用している旅館もある。半かけ流しという言葉を使っているところもある。私も個人的にはかけ流し推進派ではあるのだが、改めて詳細設計において検討していきたい。

エリア分けの理由についてはいくつかあるのだが、まず開発用地の広いところについては、少しレッドゾーンが掛かっていて制約が発生するため大きな建築は難しいことと、保養センターのあり方を検討していたこともあるのだが、旅館も旧金城観光ホテルから旅館街のちょうど真ん中にあり、外湯としての機能、歩いて宿泊客が入られるという立地なども踏まえて検討させてもらった。また、今回も地盤調査をするのだが、開発用地はかなり深い谷、農地を埋めた場所であり、今よりもっと地盤が悪いのではないかと想定している。費用対効果も踏まえて、資料では触れてないが選定させてもらった。

○小川委員

前回も少し話があった食事について。マンパワーが限られているとのことで、地域の人口なども出ていたが、1回来られたお客が温泉の良さを感じて次は泊まりに来られることを想定されている。1回来たときに食事を希望されたらどこを紹介されるのかすごく心配である。一時期は旅館でも対応を考えるという話があったが、結果的に今はない。レジャーエリアに民間業者の参入を期待されているのか。今の関係者が担ってくれる可能性は恐らくない気がする。これからコンサルにお願いする際、どのあたりでそれらを検討してもらう用意があるか。

○金城支所産業建設課長

地元説明でも旅館組合の話合いの中でも、物販や食事ゾーンは大切ではないかとの意見で一致した。支所の担当者としてもそれは重々承知している。今の保養センターの状況や、細かいことを言えば旅館組合のある旅館も県の事業を使われ、昼間は飲食をされるよう改造されたのだが、コロナを機にずっと営業をやめておられる。やはり収支が合わなかったものと推察されるが、今回は新たに外湯を設けて違う客層を連れてこようとしているので、それに見合った、例えば少しおしゃれなカフェなどの関連施設は当然必要になってこようかと思っている。そちらは市では建設しないが、プロポーザルの詳細設計の中で、こういうカフェに来てほしいといったもっと具体的なイメージを出して、それには市はこういう条件で呼応するというのも整理した上で出てもらう。そのときには外湯にこういう特徴の女性が年間何人くらい来るから、きちんと経営すればカフェでこのくらいの売上げになるなど、その辺をしっかり見せないとなかなか掘り起こせないかと。ただ少し残念だったのは、これを開発する間に、いざ美又でカフェをやってみたいと言われる方がおられたのだが、空き店舗がないなど条件が合わず、どうもほかで開業されたようである。そのように、しっかり条件と夢を見せることによって、それに見合った方に進出していただけるのではないかという思いを持っている。それも分かるようにしたいということで、整備計画の中で例としてカフェや雑貨などを載せて、どのくらいの規模の売上げで、建物を建てたらこのくらい掛かるとか、市の貸す条件も整理して周知したい。

もう一つは、この整備計画で肝になるのが保養センターの解体をいつ着手し、外湯と全体がいつきれいに完成するか。一気に合わせるのか、できればなるべく入浴の営業は続けておいて、完成した後に壊すのか。それによって商業施設に誘致する時期が変わってくる。そこも今回非常に重要である。一緒のほうが指定管理者と一緒に経営しようかという方が現れるかもしれない。このように検討範囲が広いのだが、頑張っ

○田畑副委員長

資料に出ている面積で最終的に詳細設計を発注するのか。

○金城支所産業建設課長

予算については7億5千万円、面積1,100平米を基準として今回もプロポーザルで競争していただくが、平面図の構成や設備内容については今後も変更があり得るということで公募したいと思っている。

○田畑副委員長

先ほど大谷委員が言われた、隣の家との目隠しは何があってもしなければ駄目である。金がいくら掛かるかということもあろうが、うっすら見えるような温泉はどこに行ってもないと思う。あれだけは絶対にやっておかないと駄目だと思う。ぜひやってほしい。

○金城支所産業建設課長

先ほどうっすら見えると言ったのは、通路である。休憩室や浴場は絶対に見えないよう考えているが、通路が樹木の葉っぱの間からうっすら見える可能性があるとして申し上げた。壁を高くしても追いつかない場所なので、樹木で視線を遮るような考えを持っている。

○田畑副委員長

うっすらだろうが何だろうが、見る人が見れば誰が来ているとか若い人が多いとか、見えてしまってはまずい。お客に対して大変失礼なことである。美都温泉でも7メートルくらいの目隠しが露天風呂に立っている。7メートルで足りるかどうかは分からないが、いずれにせよ絶対に見えてはならない。ぜひそれだけはやってあげないと、湯の良しあしの問題ではない。

○川上委員長

今の件については考えてほしい。私からも良いか。せっかく今こうして借景の話も地盤整備の話も出た。今回の基本契約のときにランドスケープができる方が参加されていたか。恐らく参加されてないのだろう。トンネルから出たときにどう見えるかとか、先ほどの話のように山からどう見えるかとかいったことは、ランドスケープができる方ではないと分からない。そういうのをしっかり組み込んで、今回のプロポーザルに入れてもらいたい。同時に、地域コミュニティ全体としての考え方も、今回は三つのエリアを考えたところがあるが、地域コミュニティも含めて検討する必要がある。同じく、ランドスケープをされる方はそういうことも含めてされるので、プロポーザルに含めてもらいたい。これは提案だがいかがだろうか。

○金城支所産業建設課長

ランドスケープの意味が分からず答えに窮した。この基本計画を受託した業者もかなり何度も現地に足を運ばれて、実際に民家に立って見たりスケールで図ったりして、検討された結果は聞いている。平面図が変わるかもしれないと言った理由としても、視線をどう遮るかが一つの大きなテーマになると言われていたので、次の詳細設計でもそこはしっかりやっていきたい。地域コミュニティにどうやって循環して還元していくかが大きなテーマなので、プロポーザルの中でしっかりやっていきたい。

○川上委員長

できれば3Dでやれば、全て分かる。そういうことができる会社をぜひ選んでもらいたい。できるところは分かっているから、ぜひお願いする。

○牛尾委員

カフェのことで少し気になったのだが、益田や江津の9号線沿線を見ていると、カ

フェというのはもう初期投資をして造ってペイできるような業態ではない。ターゲットが30代から50代となれば、誰か来てやってくれるかではない。至近な例を挙げると、森のレストランがある。あそこは確か土地を無料で受けて、建物を建てるのにもほとんどお金が掛かってないから家賃が掛からない。初期投資がほとんど掛かってない中で経営しているが、従業員はそこそこ雇えるし、原価率も結構掛けている。そういうタイプしか、この沿線上では成り立たない。もし30代から50代をターゲットで温泉に入った後は何も無いと言われると価値が下がる。やるとすればカフェを造ってしまう。すごく難しいが。カフェでもレストランでも使える万能型オープンキッチンみたいなものを公費で設けて、プレイヤーがプレイヤーを呼んでくる。プレイヤーに家賃として売上げのいくらかを徴収するタイプだと難しいと思う。ペイしないから、お金が余ってれば企業もやるかもしれないが、全てパッケージで自腹でやるとしたら、カフェは採算が合わないのがこの周りの現状である。

それならむしろそういうものを取っ払って、農協の婦人部がやっているいわゆる食堂のように、昔懐かしいアットホームな田舎料理を堪能させるような食事処しかないのではないかと思う。もしカフェが絶対必要だと思うなら、ある程度こちらが設定してプレイヤーだけ呼んでくる。市の援助メニューと自分らの出店するサイクルが合わなければ補助金がもらえずにオープンして、1年もつかどうか危ういところもある。だから本気でカフェが必要なら、ある程度造ってプレイヤーを呼んでくるような思想も入れたほうが良い。今でもできるならあの辺にはいっぱいあるが、ペイするわけないからやらない。

○金城支所産業建設課長

美又の現状を見るに、廃業された旅館がそのまま残っている、商店の空き店舗もある。ここも踏まえてどう再生していくかを一つのテーマとして担当課では見ている。外湯の敷地に新たに設置される可能性の有無についても今回のプロポーザルの中で、整備費を含めてペイできるか検討していく。それが難しければ、言われたように初期投資をどう低減する手段があるか。今回旅館については官公庁の事業を入れることで支援ができたが、新規の出店にどういうメニューがあるのか、市有地の貸付けをどうするのか、色々考える中にはエリア内の空いている旅館と店舗をどうするのか、そこにも支援して再生できたら良いと考えている。検討する範囲が広いが頑張りたい。

○佐々木委員

壮大な事業なので検討事項は当然多いと思う。令和7年度までの事業計画が予算を含めて示してあるが、レジャーエリアについて、これからの事業費を投入するようなことは、民間が活用して行うとの話だったので、特に新たな設備はないということか。

○金城支所産業建設課長

今のところレジャーエリアについては、公費の投入を検討していない。

○佐々木委員

放っておいても特に課題はないということか。

○金城支所産業建設課長

除草など必要な管理はしているが、地元からもあそこに早く整備してほしいという要望は出ている。進出してもらえる方がおられたら良いと思っている。こちらとしても、いつどのような形でどういう条件で民間に公募するか。まずは公募でチャレンジしてみたい。一つずつやっていきたい。公募条件はしっかり精査して、まずは公募してみるため、公費の投入は検討していない。何もしないという意味ではなく、まずは民間で公募してみたい。

○佐々木委員

レジャーエリアをこういってことで活用しなくてはならないのは、先ほど少し話があった、ここを使って進めていざれ何かに活用しようという具体的なものがあるって埋めたわけではないということか。

○金城支所産業建設課長

旧金城町時代、バブル期の話だが、美又温泉の入込客が非常に増えて、もっと開発すべきではないかということで、利用地をまず取得し、県道改良の事業がちょうどあって残土捨て場に用地提供して今の形になった。そのときには当然開発構想を持っており、あそこに大きなレジャー施設を建てるものだったのだが、現状の状況とはマッチしてないため、今回新たに基本構想で民間の進出用地にしようと改めた。

○佐々木委員

県道の残土を活用するということだが、特に使わずとも活用については地元要望があるようである。どうしても民間が参加できない場合はそのまま置いておくということはないと理解した。

もう一つは収支について。入浴客数が6万3千人で収入が7,800万円、支出が7,600万円で、2百万円の収入が出ると概算が示してある。今後詳細を詰めていく中で、入浴客数を増やすのは企業努力の関係で少しは想定できるが、支出はより良いものを造ると維持管理費も上がってくる。まだ収支は未確定ということか。

○金城支所産業建設課長

プロポーザルの仕様書の中にも、詳細設計を踏まえた収支計画を作成する業務を入れている。言われたように、風呂設備の構成など設えを変えれば当然ランニングコストも変わってくるので、入浴用の設定を再度検討して、それも踏まえて最終施設にしたい。収支バランスも見て改めて検討させてもらう。

○佐々木委員

もちろんターゲットを広く見込んでそれなりの設備にするとすると、そのための費用も維持管理費も掛かってくる。どう判断するかは非常に難しい。経費が見えてくるほどに議会などに示してもらいながら、より良く、管理が継続できる内容を検討してもらいたい。

○金城支所産業建設課長

大前提としてこの施設は独立採算でやってもらおうという市の思いがあるので、誘客を図る目的で収支が合う条件を総合的に判断して、自立運営できる施設にしたい。イニシャルコストが掛かってもランニングコストを下げる方法があるなら、もしかし

たら議会にもお願いして、7億5千万円と言っていたがこうなるというお願いをする可能性もある。差額は分からないが、それは市の中でも相談しながら、イニシャルコストとランニングコストを必ず調整して示したい。

○佐々木委員

収支の経費は維持するには重要である。もう一つ心配なのは入込客数である。観光地ではないので、この美又温泉をいかにアピールするか、美又温泉で人を呼ぶという話だった。恐らく今までもいろいろな宣伝をされてきたし、旅館の方々のおもてなし努力、足湯なども設けるなど、PRや設備も用意されながら、人口減少やコロナ禍もあってどこの温泉も客が減っており、本当に厳しいと思う。その中でさらに入込客数を増やしながらか維持していくのは、非常に高いハードルがあるのだろうと思う。相当インパクトがある取組でないと誘客は難しいと思う。その辺はコンサルの方にもしっかり見てもらいながら、温泉の担当者の方が自分たちの目で、あるいは感覚で内容を作り上げていくのは大事だと思う。コンサル任せではないだろうが、その辺を腹に入れてこの事業を進めてほしい。

○金城支所産業建設課長

入込客数を上げるのは、このコロナ禍にどこの観光地も同じことを考えている中で、国の旅行支援が出たときも同じ条件なので、同じパイの中からどうやって取るかは非常に苦しい作業だと感じている。美又温泉の方々もマンパワーが足りず、これを皆で取り組もうといったときに大事にしているのが成功体験である。やって良かったと思ってもらわないと次の活動につながらないと感じている。

例としては温泉総選挙の取組で、これは皆もかなり手ごたえを感じておられ、今年についても頑張っていこうと力が出る。同じように外湯についても、造って良かったと言えるものにしないと、意識が離れると全体の集客が絶対に落ちる。

そういう意味では、外湯機能の仕組みをどうやってしっかり作るかが重要だと思っている。まずは旅館組合とこの施設がコアとして結び付いてもらわないといけない。また、別方面から1件、夜神楽を毎週土曜日に開催しているところが浜田市内のビジネスホテルの誘客を併せてやっているのだが、時間を調整してもらえればそのお客を美又の外湯に連れて行き、泊まるのはビジネスホテルだが紹介できるチャンスが広がるという話をいただいている。外湯というキーワードも美又温泉だけでなく市内に目線を広げて、そういった事業者とも協議して誘客目標数を達成したく考えている。

○村木委員

今回プロポーザルをやるに当たって、美又レジャーエリアのことも対象なのか。または良い企画や提案をもらう仕様になっているのか。

○金城支所産業建設課長

今回の詳細設計は予算のこともあって、外湯と保養センターがメインではある。しかし全体計画の最後に、レジャーエリアの公募をいつ開始するかなどを入れていきたいと思っている。全体を見られる計画書にしたいと思っている。

○村木委員

美又の自治会、協議会、地区まちづくり推進委員会、まちづくりセンターは今回の地域再開発にどのように関わるのか。

○金城支所産業建設課長

地区まちづくり推進委員会、まちづくりセンターにはいろいろ話をさせてもらっている。まずコミュニティなどそういうつながりで言えば、今回県立大学の先生が旧美又JAの洋館を買い取られ、コミュニティ施設に改装されている。地域との関わりの行事をされており、前よりは近い距離を持たせてもらっている。今回の外湯についても、市外客は千円、市民は900円という設定なども話をして合意いただいた。

少し考慮しないといけないのは、今の保養センター内に美又エリアの産直機能を入れており、あのあたりをどうするかという話があるのだが、地元からはもう物が出ないという後ろ向きな意見もある。

○村木委員

焼酎を作っていた。

○金城支所産業建設課長

あれは出るが、野菜や加工品が思ったより出なかった。そこは、ぜひ造ってくれという意見はあまり出なかったのが正直なところである。そういったことも含めて美又とも話をしながらやっていきたい。

○村木委員

今回の計画の中に防災計画があったので興味を持った。平成29、30年に実際にあそこで増水があり、美又公民館へ避難した。今も防災計画は載っているが、これもプロポーザルで意見を聞くという意味で良いか。

○金城支所産業建設課長

プロポーザルの提案競争の中には入っていないが、受注業務内に防災計画を作るという項目を入れている。イエローゾーンが少し掛かっているので、土砂を避ける土壁がどれくらいの高さで強度はどうか、避難経路はといったことは、専門部署と協議する。受注後の計画書でしっかり製作する予定になっている。

○牛尾委員

美又は浜田エリアで唯一生き残れる温泉だと思っている。かつて星野リゾートが、美又を蹴った経緯がある。話そのものは非常に良いが、星野が出店しても合わないという結果を出した場所なので、よほどのことがないと難しいと思う。

温泉総選挙はとても良い。皆のマンパワーのおかげで1位が取れたのだと思う。そのことによって一時的に客は呼び込めるが、来たときに幻滅されないように外湯がきちんとできるまでは地元で頑張ってもらわないと。選挙だけでなくおもてなしを頑張ってもらわないといけない。星野に負けないでほしい。

○大谷委員

観光的に何も無いと言われたが、本当に何も無いのか。なければ造れば良い。例えばあの周辺に仮に小さな祠があったとして、その祠のいわれをきちんと調べ、皆がストーリーに引っ掛かるようないわれが残っているなら、それを引き立てていくよう

にすべきだと思う。

今有名になった観光地も、初めはさほど大したことない観光地を育てたから今有名になっている。例に挙げたいのが、長門市にある元乃隅神社。ロケーションが良いのでそれも功を奏しているとは思いますが、説明を見ると「白狐のお告げで昭和30年に建立された神社」と書いてある。昭和30年だから、100年も経過してない。ロケーションが良いから鳥居を123基並べたそうである。それがインスタ映えして脚光を浴びている。行ってみると駐車場もなく、車を停めるのに苦労するような場所だったが今頃は整備されてきている。そういう例があるように、造らなければいけない。地域の人がある良さを再発見されて、それを引き立てるような姿勢が必要だと思う。

温泉を核にしながらも、その温泉がどうやって発見されたか、どのようにこれまで維持されてここまで来ているかなど、そうした話を含めて全部良さになると思う。そういう視点もお願いしたいがいかがか。

○金城支所産業建設課長

少し言葉足らずな部分があったので補足させてほしい。先ほど星野リゾートの話も出たが、保養センターの譲渡を受けてくれる企業を探したり、開発エリアに進出してくれる企業がないか当たった中で、共通して言われたのが、人数に多少の誤差はあるが、大体100万人の観光地のそばでないと新規出店はしないと。出雲はその規模の観光地があるので星野リゾートが進出された。現状、美又温泉に100万人誘客する観光地はないという意味で言った。

言われたように、ないなら造らないといけないというのはおっしゃるとおりである。今は浜田市全域で美肌観光を立ち上げているが、そういうコンテンツづくりであるとか、美又温泉の中にも神社があったがそれを今は美肌神社にして、おみくじが引けたりする。そういうことを一つずつ重ねながらやっていきたい。

○大谷委員

県道から入り込んだところに位置することはどうしようもない事柄なので、逆にそこに呼び込むためには温泉の魅力を作ることも当然大切である。なおかつ、海岸部に出掛けた方に帰り掛けに寄ってもらう。あるいは、周辺環境も活用しながら帰り掛けに寄ってもらう。そういう仕掛けも当然してもらいながら盛り上げてもらいたい。

○川上委員長

ほかに、特段なければこの辺で置きたいと思うがよろしいか。

(「はい」という声あり)

(2) その他

○川上委員長

その他、執行部からあるか。

○金城支所長

私も支所は初めてで、色々なまちづくりセンターに行った。実は金城エリアはウォーキングが4回あって、山陰偉人ゆかりの地を散策して再発見しようということをして

やっている。良いものを掘り起こすことでつながっていけるということもあるのではないかと、いろいろな人から情報を集めている。

私は以前観光部署や水産部署にいた。どうしてもセクショナリズムというか、そのことしかしない。やると仕事が増えるから。そういうこともあるが、美又で夜神楽を始めるときにお願いしたりする。広島PRセンターは当時からPRに向けてのやり取りをしたこともある。美又だけ金城だけではなく、やはり浜田市全体でやっていかないと。連携していくことで何か新しいものが生まれるのではないかと感じながらいろいろな仕事を少しずつやっている。壮大なことになると失敗もできない。すごいプレッシャーの中でやっていると感じている。至らないところはあると思うが、しっかり応援していただけることを力に変えてやっていきたい。ぜひ力添えをお願いしたい。今日言われた意見は一つずつ丁寧に潰していく。意に沿わないところはあるかもしれないが頑張っていきたいので今後ともよろしく願います。

○川上委員長

ここで執行部は退席されて構わない。暫時休憩とする。

(執行部退席)

[11時 24分 休憩]

[11時 28分 再開]

○川上委員長

委員会を再開する。

2 地域井戸端会での産業建設委員会としての現在の取組状況について

○川上委員長

このことについては5月11日から地域井戸端会が始まる。産業建設委員会として取り組んでいることについて、委員は共通認識を持っておく必要がある。委員会ごとに現状説明という項目があった。当委員会としては今大きく三つある。指定管理について、道の駅について、酒蔵について。この三つについてどのように説明するか。簡単でも良いのでペーパー1枚くらい作っておくと説明しやすい。それに加えることがあっても構わないが骨子は変わらないという形にしておきたい。いかがか。

○大谷委員

今日もこうしてテーマを絞った形で美又温泉のことを取り上げた。この点についても、こういう事業が進んでいるということは市民にお知らせして、完成の折には利用してほしいというスタンスで案内しておくのが良いのではないかと思う。

○川上委員長

では美又も加えて、全部で四つ。四つのうち二つについては4月25、26日に視察する。それをなるべく早く取りまとめれば5月11日に間に合う。地域井戸端会の1日目は

どこでいつだったか。

(「大麻」という声あり)

では5月11日までに作ってしまわないといけないので、4月中に私がまとめて皆に送ろうか。

(「はい」という声あり)

では私に任せてもらって良いか。

(「はい」という声あり)

そうすれば話が早いので。副委員長にもお願いすると思うので、よろしく願います。正副委員長でまとめて皆に報告する。以上でこの件については終わる。

3 行政視察について

○川上委員長

前回の委員会では、四国の鳴門についてと言っていたが、当たってもらったところ、ちょうど市庁舎の移転をするため対応できないとのことだった。そこで鳥取市の道の駅西いなば気楽里を選んだ。視察も受けてもらえるとのことだった。

もう一つは以前からあった、岡山市の酒蔵を活用したレンタルスペース、ギャラリー、飲食店がある、かながわSAKAGURAである。こちらは岡山市が改修して指定管理に出している。当市の市長が言われているマルシェや多目的ホールとは少し違うかもしれないが、三桜酒造の使える部材でどのような雰囲気ができるかも含めて検討材料として見に行きたい。こちらも視察対応は可能とのことだったが、制約等もあるようで、日時が限られており26日午後であれば大丈夫と言われた。この2か所について、4月25、26日で産業建設委員会行政視察を行うことに決定したいと思うがよろしいか。

(「はい」という声あり)

では25、26日で西いなば気楽里とかながわSAKAGURAへの視察を行うことを決定する。日程については後日皆に連絡する。同時に、報告書を作らなければいけないので、当日視察途中で担当を決めてお願いしたい。そういう方向でやるので、よろしく願います。

4 その他

○川上委員長

ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

しばらく期間が空くので、4月25、26日が終わった1週間後くらいまでには集まってもらう方向で考えたいのだがいかがか。5月11日までに、地域井戸端会での報告事項についてと視察報告について、まとめとしてやりたい。今日日程を決めておきたい。

(以下、日程調整)

では、5月8日の10時から産業建設委員会を開催する。よろしく願います。以上

で産業建設委員会を終了する。

[11 時 36 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員会委員長 川 上 幾 雄